

エルニーニョ監視速報を拡充します

日本をはじめ世界での異常気象発生をこれまでよりの確に予測するため、平成21年7月から、エルニーニョ監視速報に、インド洋及び西太平洋熱帯域の海洋変動の監視・予測情報を加えます。

気象庁では、エルニーニョ監視速報により、エルニーニョ監視海域の海面水温変動の監視、予測情報を毎月提供しています。しかし最近の研究では、エルニーニョ監視海域だけでなく、インド洋熱帯域及び西太平洋熱帯域の海面水温変動も、日本の天候に大きな影響を及ぼすことが明らかとなっています（別紙）。

気象庁では、これらの海域の海面水温を監視、予測することの有効性を確認し、情報提供の準備が整ったことから、平成21年7月より、エルニーニョ監視速報に、インド洋及び西太平洋熱帯域の海洋変動の監視予測情報を加えることとしました。

これにより、日本をはじめ世界での異常天候発生をこれまでよりの確に予測するとともに、異常気象発生リスクの評価に資することが期待されます。

拡充の内容

インド洋熱帯域及び西太平洋熱帯域における海面水温の実況と6か月先までの予測情報を加えます。

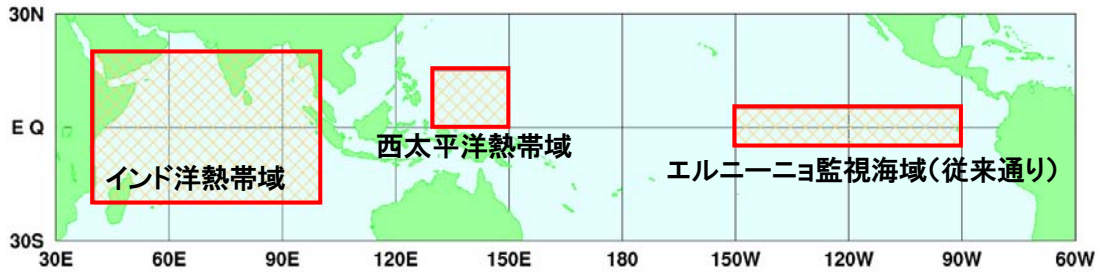
エルニーニョ監視海域を含めた3つの海域のいずれかで、海面水温が大きな偏差を持つ場合、天候への影響について解説した参考情報を適宜提供します。

なお、エルニーニョ監視速報は気象庁ホームページの以下のURLからご覧になれます。

URL: <http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/elnino/index.html>

本件に関するお問い合わせ先： 気候情報課 03-3212-8341（内線5134・5135）

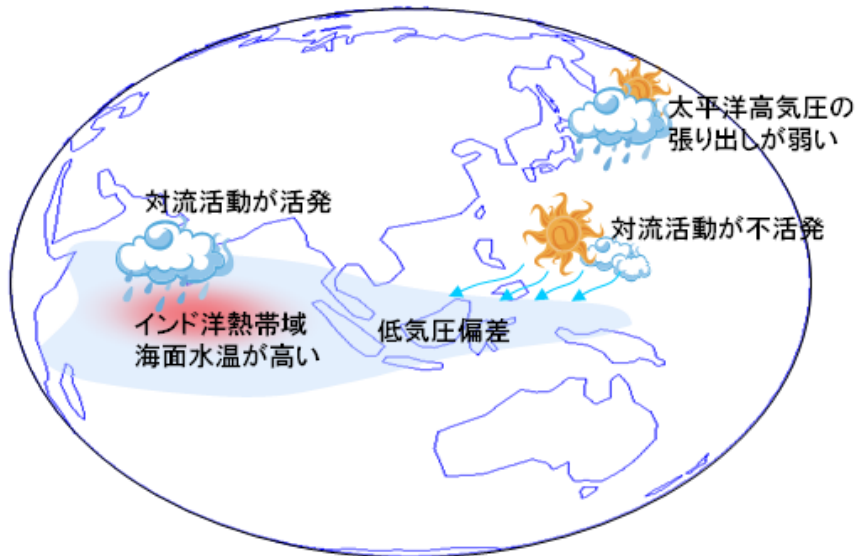
【新しい監視海域】



インド洋熱帯域 (20° S ~ 20° N、40° E ~ 100° E) : この海域の海面水温は、エルニーニョ監視海域の海面水温に対して 2~3 か月遅れて変動する傾向があり、下図のメカニズムにより、日本の天候に影響を及ぼすと考えられています。

西太平洋熱帯域 (0° ~ 15° N、130° E ~ 150° E) : この海域の海面水温は、エルニーニョ監視海域の海面水温と逆の偏差となる傾向があり、フィリピン付近の対流活動の消長をとおして、日本の天候の影響を及ぼすと考えられています。

【インド洋熱帯域の海面水温の日本の天候への影響】



夏季にインド洋熱帯域で海面水温が高いと、インド洋全域で海面気圧が低めになり、赤道に沿って西太平洋まで低気圧偏差が伸張してきます。フィリピンのミンダナオ島東方では、低気圧場に向かって吹く北東風偏差が発生し、フィリピン付近を中心に下降流となり、対流活動が不活発となります。その影響で、日本付近では太平洋高気圧の張り出しが弱くなり、北日本を中心に、低温、多雨、寡照傾向となります。